



ヒロセ電機株式会社

2019年3月期第3四半期 決算説明会

2019年2月7日

イベント概要

[企業名]	ヒロセ電機株式会社		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2019年3月期第3四半期 決算説明会		
[決算期]	2018年度 第3四半期		
[日程]	2019年2月7日		
[時間]	10:30 -11:27 (合計：57分、登壇：29分、質疑応答：28分)		
[開催場所]	〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー6階 602		
[会場面積]	231 m ²		
[登壇者]	2名		
	執行役員 管理本部長代理	福本 広志 (以下、福本)	
	管理本部 IR室長	須崎 英雄 (以下、須崎)	

登壇

須崎：おはようございます。定刻になりましたので、ただ今よりヒロセ電機第3四半期決算説明会を開会させていただきます。本日はご多用中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。私、ヒロセ電機管理本部 IR 室、須崎でございます。本日はよろしくお願いいたします。まず、皆様にお配りしました資料の確認からさせていただきます。受付のほうでファイルでお渡ししております、決算説明会の資料。その下に昨日東証で公表しております決算短信と、業績予想修正のお知らせと、この3部構成に資料はなっております。お手元にごございますでしょうか。よろしいでしょうか。

2018年度 第3四半期累計 (2018/4 ~ 2018/12) ビジネス概況



2018年度 第3四半期
累計 (4月~12月)

受注高 **974.4** 億円
(対前年同期比 -1.3%)
売上高 **959.9** 億円
(対前年同期比 +0.9%)
営業利益 **199.9** 億円 ※利益率 **20.8%**
(対前年同期比 -13.6%)

一般産機

一般産機市場向けの売上は、一部FA関連で調整あるものの、全般的には昨年度からの高水準が継続しているが、米中悪化問題による景気落ち込みの影響もあり第3四半期累計では対前年比プラス4%の微増となった。

スマートフォン

スマートフォン市場向けの売上は、新機種の需要により第3四半期は、11月までは順調に推移したが、一部機種での在庫調整などによる減速も影響し、第3四半期累計では対前年比マイナス9%の減少となった。

自動車

自動車市場向け売上は、順調に推移し第3四半期累計では対前年比プラス11%の増加となった。

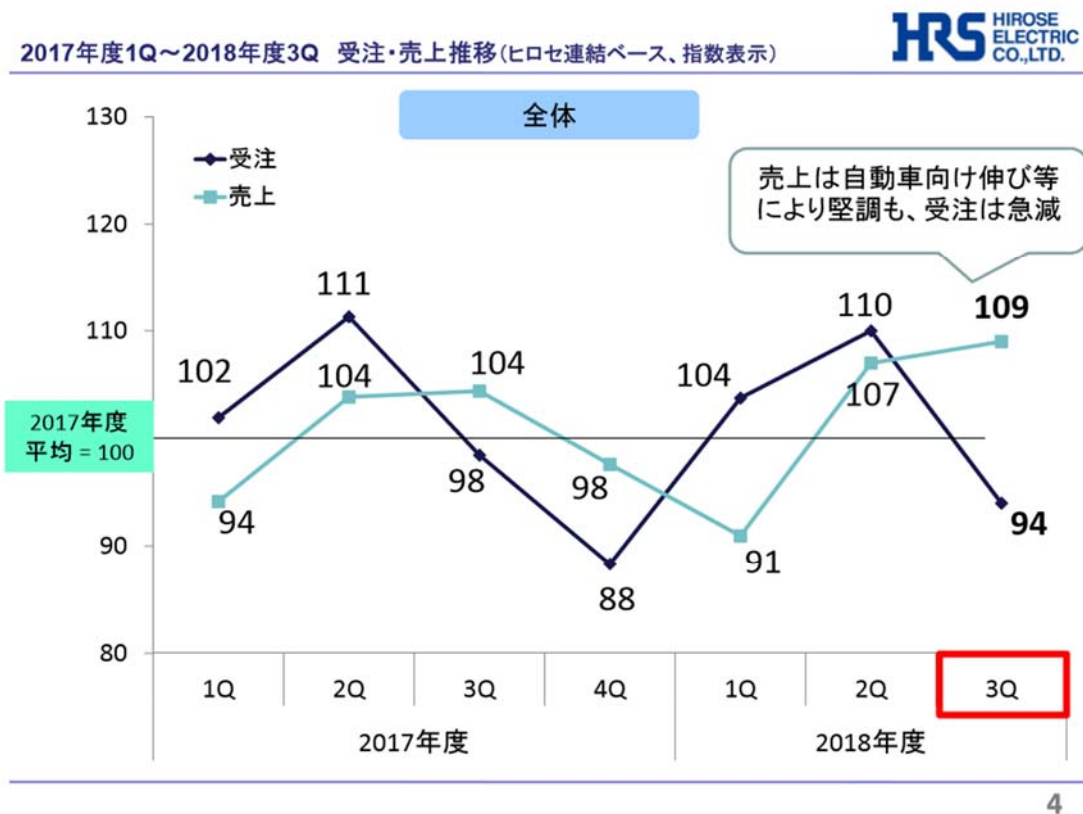
3

それでは始めさせていただきます。まず第3四半期の決算概要です。受注高は974.4億、前年同期比マイナス1.3%。売上高は959.9億円、前年同期比プラス0.9%。営業利益が199.9億円、利益率が20.8%、対前年同期比がマイナス13.6%となっております。アプリケーション別主要3分野につき、一般産機市場向けの売上は一部FA関係で調整があるものの、全般的には昨年度からの高水準が継続している売上の結果となっております。ただ、米中悪化問題による景気の落ち込みの影響

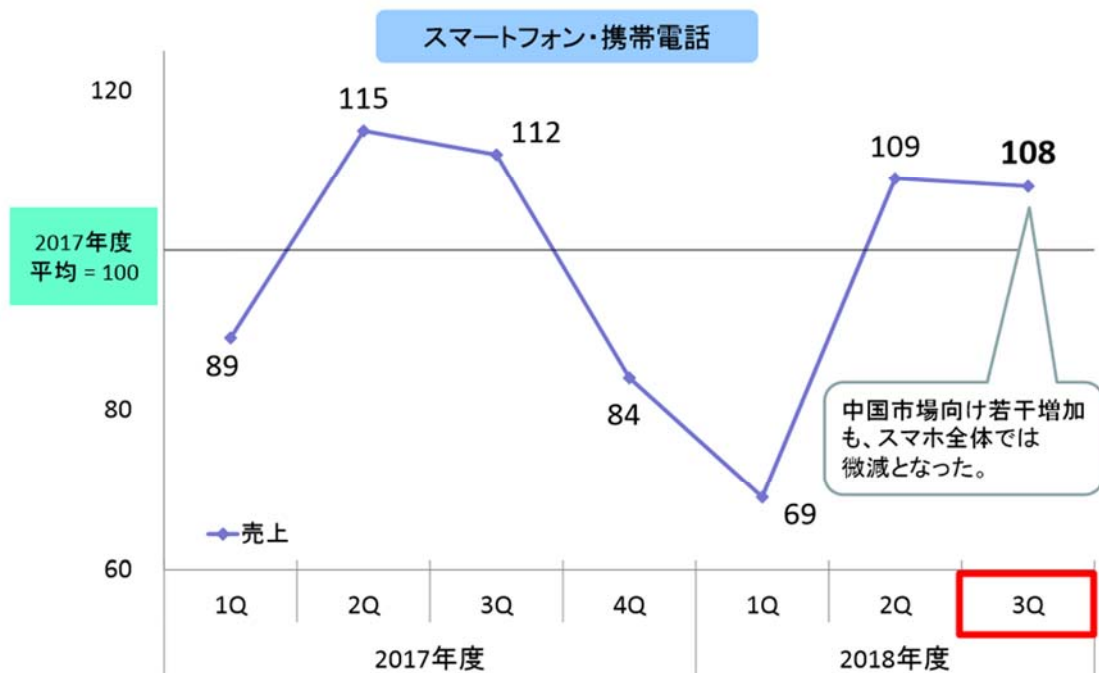
もあり、ややくすぶっているところで、対前年比はプラス4%の微増となっております。この4Qに関しては、後ほどまた触れさせていただきます。

それからスマートフォン向けに関しまして、いわゆる秋モデルと呼ばれる新機種の需要により、第3四半期、特に11月までは順調に推移したんですけれども、12月から一部機種での在庫調整などで減速が影響しました。第3四半期累計では前年比マイナス9%の減少となりました。2Qの説明のときには3Qは若干、横ばいから上がる予定だと申し上げていたんですけれども、12月が急減したところで、QonQでここは若干のマイナスとなりました。

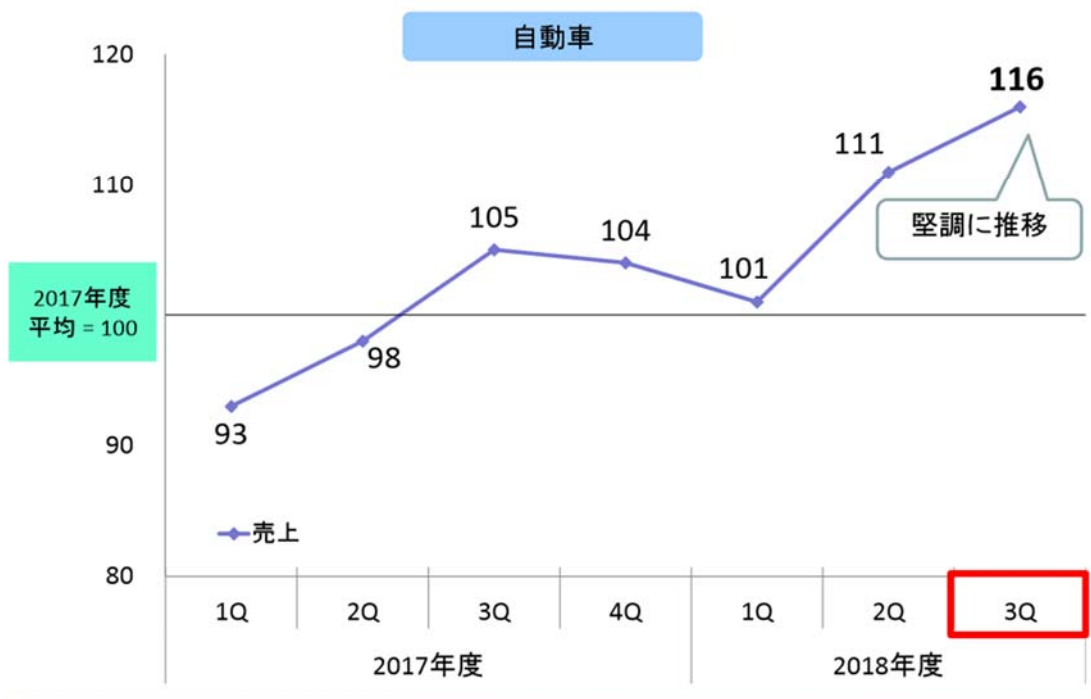
それから、自動車向けに関しましては順調に推移しております。3Q累計ではプラス11%の増収となっております。ある程度、自動車向けは計画どおりでございまして、EV、ADAS向けの需要増で順調に推移している内容でございまして。



続きましてグラフの表示をさせていただいておりますので、それで見させていただきます。まず全体ですけれども、売上は自動車向けの伸びがありましたので全体としては堅調ですけれども、実は受注は急減したという結果でございまして。3Qの3カ月の数字で出ておりますけれども、12月が一番落ちた中身でございまして。売上に関しましては指数で107から109に上がっておりますけれども、中身的にはやはりここも12月は若干ダウンした中身でございまして。

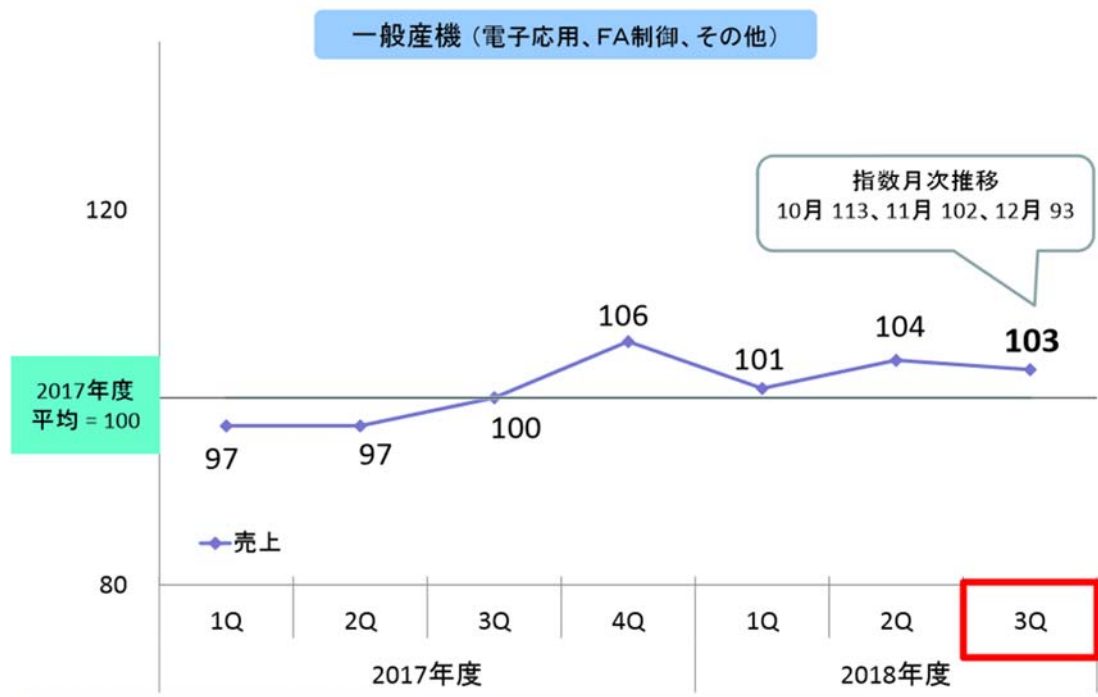


続きましてアプリケーション別で、スマートフォンになります。指数で見ますと2Qから3Qは109から108と、大体横ばいで若干ダウンというふうに見えますけども、中身的には中国向けのところが若干プラスで、ほかのエリアに関しては若干ダウンで、トータル微減という中身です。先ほどのとおり、スマホに関しましても12月が大きく落ちたという中身です。数字自体は開示していませんけれども、11月から12月のMonMで大体2割程度ダウンしたといった中身でございます。



6

続きまして自動車になります。自動車は堅調に推移と、簡単なコメントしかございません。先ほどのおとおり EV、ADAS などの新規需要の純増を私どもいただきまして、ある意味予定どおりの結果でございます。こちらいわゆるエンド市場で販売不振は聞こえてきておりますけれども、私どもの部品、比較的足が長いところで、12月若干ダウンはありましたけれども、トータルはある程度、維持された中身でございます。



7

最後に一般産機向けになります。ここはぱっと見た目でも横ばいで動いているところですけども、先ほどのとおりで、ここだけは補足の説明で月次の指数の推移も併せて出しています。3Q自体が103ですけど、その中身が10月は113、11月は102、12月が93と急減した中身であります。当然、受注も先行的に、より悪いというところで、12月急減したところで、後ほど説明申し上げます。下方修正の4Qの中身は、特に産機が不透明感が増した中身でございます。

2018年度 第3四半期 連結決算概要【IFRS】



(金額単位:億円)

	2017年度3Q (2017/12月期)	2018年度3Q (2018/12月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)
売上高	951.7	959.9	+8.2	+0.9%
売上原価率	53.0%	55.1%	+2.1	
販売・管理費比率	22.6%	24.1%	+1.5	
営業利益	231.2	199.9	-31.3	-13.6%
(%)	24.3%	20.8%	-3.5	
税引前利益	234.8	212.4	-22.4	-9.5%
(%)	24.7%	22.1%	-2.6	
四半期利益	163.5	152.2	-11.3	-6.9%
(%)	17.2%	15.9%	-1.3	
総資産残高	3,426.9	3,396.9		
自己資本比率	89.5%	90.0%		
1株当たり当期利益	469.64円	416.08円		

8

以上から決算の概要になります PL ですけれども、売上高が先ほどのとおり 959.9 億円、売上原価率 55.1%。販管費率が 24.1%。額にして 8.2 億円の増収、比率でプラス 0.9%の増収となりました。営業利益は 199.9 億円、先ほどのとおり。利益率が 20.8%。減益でありまして、前年同期マイナス 13.6%となりました。税引き前利益が 212.4 億円、22.1%。四半期利益・当期利益が 152.2 億円、15.9%と減益となりました。総資産残高が 3,396.9 億円、後ほど BS でご紹介します。自己資本比率が 90.0%、1 株当たり当期利益が 416.08 円となりました。

■ 売上高	8.2 億円 増 (951.7億円 → 959.9億円)
	ヒロセ単体 : + 20.2 億円 子会社 : - 12.0 億円
■ 売上原価率	2.1 ポイント悪化 (53.0% → 55.1%)
	仕入原価費率: 37.8% → 38.4% 減価償却費率: 6.5% → 8.2%
■ 販売・管理費比率	1.5 ポイント悪化 (22.6% → 24.1%)
	215億円 → 231億円 (16億円 増加) (発送費、減価償却費等の増加)
■ 金融収益・費用	8.9 億円 良化 (3.6億円 → 12.5億円)
	為替差損益 : -3.5 億円 → +3.6 億円

その主要な増減に関する補足スライドになります。まず売上高の 8.2 億円増の中身的には、ヒロセ電機の単体のほうでプラス 20.2 億。子会社側でマイナス 12 億円という中身でございます。売上原価率 2.1 ポイント悪化であります。仕入原価比率に関しましては、37.8 から 38.4%と悪化しておりますけど、実は上期よりは中身的には 3Q が改善しておる中身で、昨年度比縮まっております。減価償却費の比率は今年度、先行投資を含めて投資を増やしておりますので、6.5%から 8.2%に上がっております。

販管費の比率は 1.5 ポイントの悪化、215 億円から 231 億円の、16 億円の増加です。これは YoY ですけども、2Q から 3Q にかけては若干、減少しております。年間の増加の中身、これは 2Q と同様の説明になりますけども、発送費や償却費の増加になります。

金融収支に関しましては 8.9 億円の良化、中身は為替の益でプラス 3.6 億円で、ここで昨年度と差が 7 億円で、ここが一番大きい要因になっております。

単位：億円

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
2017年度3Q実績	951.7	231.2	24.3%	234.8	24.7%
為替影響	-0.5	-1.0		6.1	
減価償却費増		-18.7		-18.7	
人件費増		-7.0		-7.0	
その他販管費増		-11.0		-11.0	
物量増他	8.7	6.4		8.2	
変動額計	8.2	-31.3		-22.4	
2018年度3Q実績	959.9	199.9	20.8%	212.4	22.1%

10

続きまして変動分析を補足させていただきます。為替の影響に関しましては、売上がマイナス、営業利益がマイナス1億円。税前利益がプラス6.1億円という中身です。それとあと自動車向け、先ほどから、前回までご説明した内容と同じですけれども、特に自動車向けの売上増にこうした先行投資、先行費用が発生していますので、昨年より減価償却費、人件費、経費等、増加が出ている中身の数字でございます。売上が上がっていますので、あとは物量等で若干、良化めに出ている中身です。

	2017年度 第3四半期	2018年度 第3四半期
為替レート:US\$	111.70円	111.14円
為替レート:€	128.53円	129.49円
為替レート:100ウォン	9.97円	10.04円



(単位:億円)

対前年同期為替影響額	
売上高	-0.5
営業利益	-1.0
税引前利益	+6.1

11

続きまして為替の影響のみを切り出したもので1枚、補足のスライドを用意しております。実績としましてはドルに関しては若干の円高、ユーロとウォンに関しては円安で、その結果このようになりました。先ほどのとおりですけれども、売上はマイナス0.5億円、営業利益がマイナス1.0億円、税引前利益でプラス6.1億円の為替影響が出ております。

連結貸借対照表主要増減

分	科目	2018/3末	2018/12末	増減額	備考
資 産	現金及び 現金同等物	694.0	516.8	-177.2	配当金、法人税の支払い他
	営業債権及び その他の債権	315.0	322.5	7.5	
	棚卸資産	121.9	139.0	17.1	
	その他金融資産	1,629.8	1,720.3	90.5	
	有形固定資産	562.0	608.0	46.07	宮古(機械・建物構築物)、 本社(金型等・建仮)
	その他	89.1	90.3	1.2	
	合 計	3,411.8	3,396.9	-14.9	
	現預金合計	1,866.4	1,709.9	-156.5	

12

続きましてBSになります。まず資産ですけども、現金のところは期初よりも減っておりますけども、ここは特に3Qは法人税の支払などで減少しております。棚卸資産は期初よりもまた上がっておりますけれども、17億円増加しておりますけども、上期からは大体3億円弱程度の増加になっております。有形固定資産、宮古、本社で増加が若干だった3Qでございます。それにより資産の合計が3,396.9億円、先ほどのとおりです。それからご参考までに現預金の合計としては1,709.9億円という結果でございます。

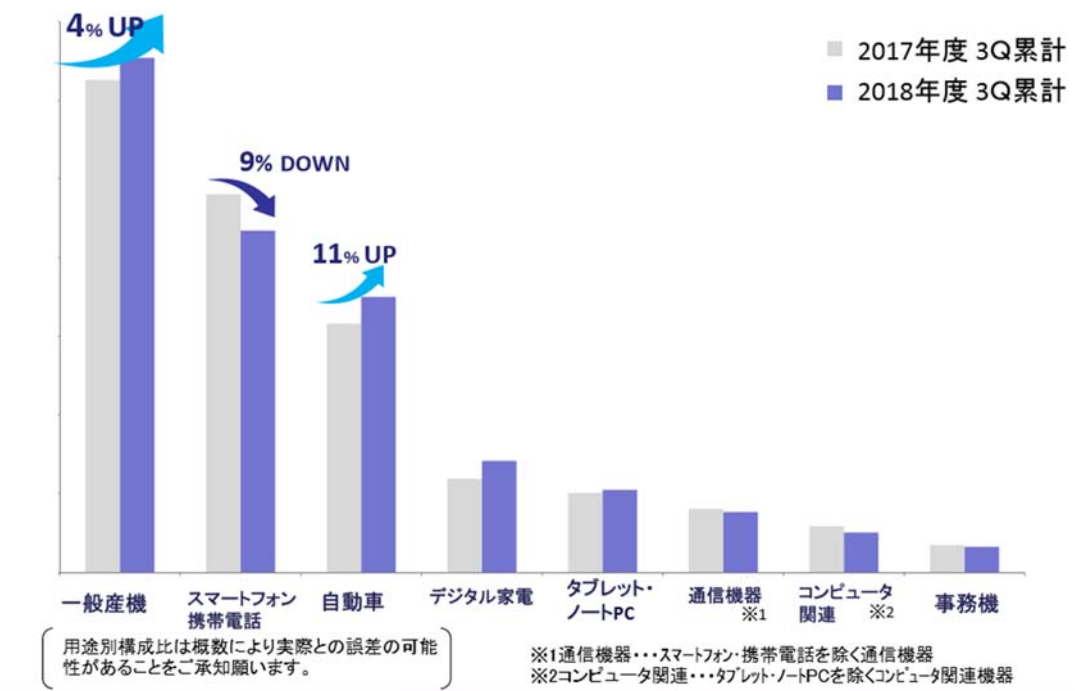
連結貸借対照表主要増減

(億円)

区分	科目	2018/3末	2018/12末	増減額	備考
負	支払債務及び その他の債務	195.3	194.8	-0.5	
	未払法人税	49.5	22.4	-27.1	
債	その他	119.8	121.1	1.3	
		364.6	338.3	-26.3	
純	資本金及び 資本剰余金	210.8	207.2	-3.6	
	利益剰余金	3,345.1	3,006.8	-338.3	当期利益 152.2 億円－配当 127.5 億円－自己株無償・消却 363.0
資	自己株式	-583.2	-226.2	357.0	株式無償割当+196.7、自己株式消却 +170.0、自己株式取得 △9.7
	その他	74.5	70.8	-3.7	
産	合計	3,047.2	3,058.6	11.4	
	負債及び純資産合計	3,411.8	3,396.9	-14.9	

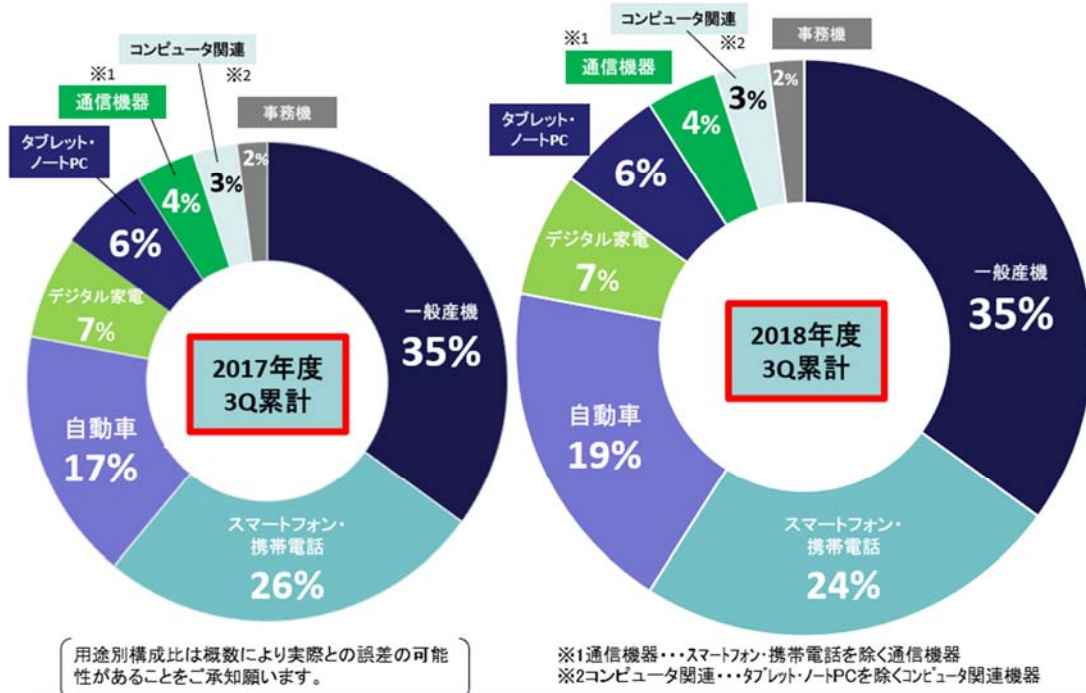
13

それから続いて負債と純資産の部でございます。負債トータルは未払法人税の減少でトータルが 338.3 億円と減少しております。純資産は 11 月の自己株買いで若干の増加で、トータル 3,058.6 億円となっております。



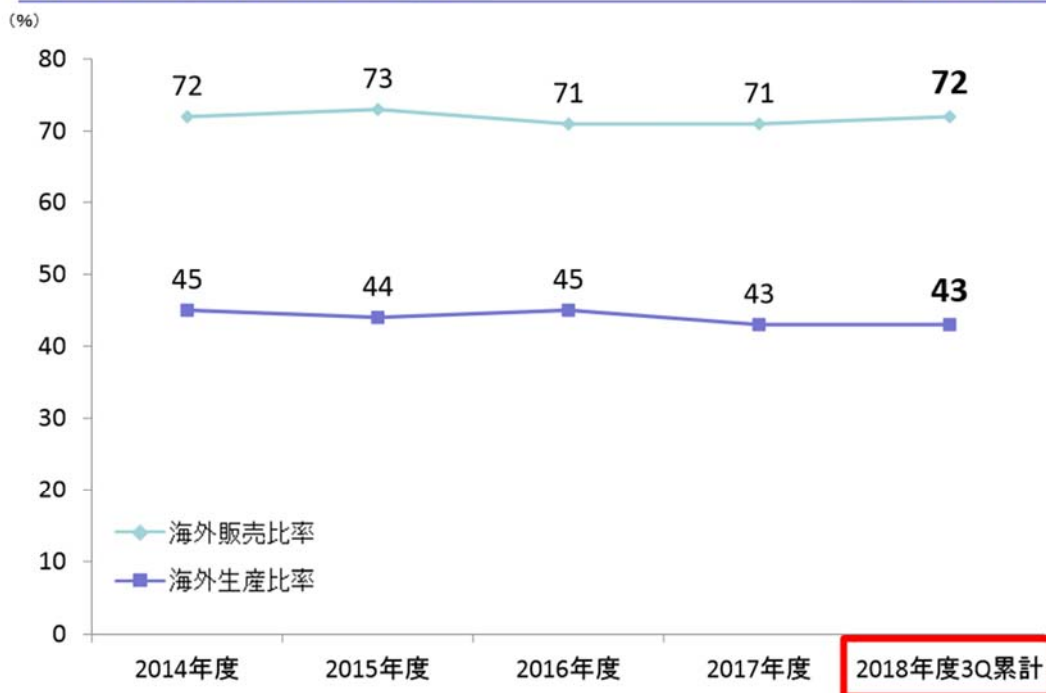
続きまして分野別の増減の前年比較になります。こちらは先ほどビジネス概況で説明した中身のとおり、主要3分野に関しましては一般産機プラス4%、スマホがマイナス9%、自動車がプラス11%です。その他は、金額規模が小さいので数字は出しておりませんが、このような結果になっております。あと補足としては、2Qから3Qの動きを若干、ご説明申し上げます。これは指数でも出してありますが、一般産機に関してはマイナス1%。スマホは2Qから3Qで、こちらもマイナス1%。自動車向けのところがプラス4%という結果でございます。それから前年との差異が大きいところでデジタル家電、ここは数字を出しておりませんが、主にウェアラブルやオーディオ、スピーカーなどの増加でございます。

コネクタ用途別売上構成比(概数)【連結ベース】



続きまして、今度は構成比になります。実は 2Q、上期の構成比と 3Q 累計の構成比、ほとんど変化がございません。一般産機が 35%、スマホが 24%、自動車が 19%です。2Q のときは一般産機が 36%、スマホが 23%でありました。ほか、それ以外のアプリケーション別構成比、全く同じでございます。

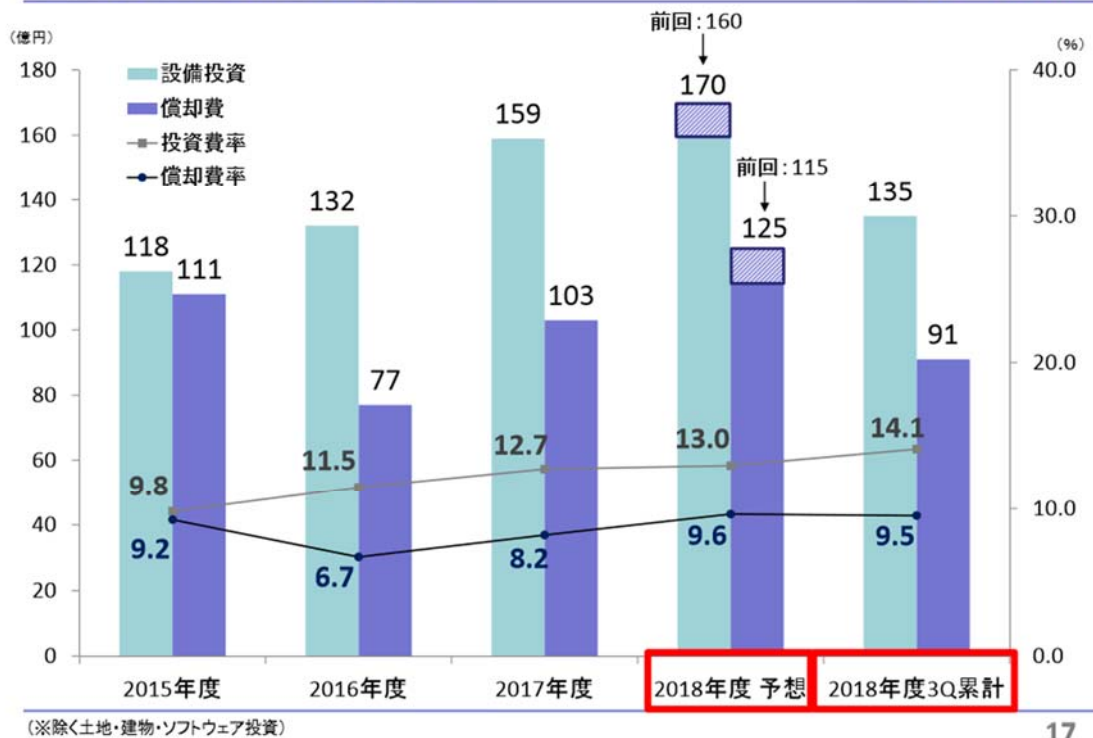
海外生産比率・海外販売比率 推移



16

続きまして海外比率、海外の販売比率と生産比率でございます。3Q 累計で販売比率が 72%です。第 1 クォーターが 68%、上期で 71%と出しておりますので、3Q 累計で若干アップの 72%です。生産比率は 43%。上期も 43 でしたので、これは同じ数値でございます。実は現状、海外生産比率は昨年と同じ比率ですけども、今期もともと年初から計画しているもので、来期を見据えて海外生産の拡充は私ども取り組んでおります。まだ数字には出ていないですけども、生産向上と収益対策で、施策として行っております。今後生産比率は上がっていくものと取り組んでおります。

設備投資・償却費 推移(連結ベース)



続きまして、設備投資と償却の推移でございます。3Qは一番右のところですが、3Qの累計の投資額135億円、2Qが87億円です。3Q累計が135億円。3Q自体を取り出すと48億円の投資額でございます。3Qの投資が多かった中身ですけれども、主に自動車向け、産機向けの増強をやっております。生産設備の前倒しが入っております。本格的な売上の寄与は来期になります。それと償却費が91億円、上期が60億円でしたので、3Qは若干アップで31億円。期中の投資の部分のプラス分がありますので、その分若干アップ、ここは予定どおりでございます。

これを受けまして今期の着地予想、当初のものから変更しております。それが1本前の左のグラフのところですが、設備投資、160億円から170億円に予想を変更しております。それから償却費を115億円から125億円に変更いたしました。

スマホビジネスの低調及び世界経済の減速感の影響等により2018.5の公表値を修正致します。

(金額単位: 億円)

	2017年度(2018年3月期)実績		2018年度(2019年3月期)			第3四半期累計対前年実績		通期対前年実績	
	第3四半期累計	通期	第3四半期累計実績	2018.5公表値	通期予想	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	951.7	1,251.4	959.9	1,300.0	1,240.0	+8.2	0.9%	-11.4	-0.9%
売上原価率	53.0%	53.8%	55.1%		55.8%				
営業利益	231.2	280.6	199.9	273.0	240.0	-31.3	-13.5%	-40.6	-14.5%
(%)	24.3%	22.4%	20.8%		19.4%				
税前利益	234.8	280.1	212.4	283.0	254.0	-22.4	-9.5%	-26.1	-9.3%
(%)	24.7%	22.4%	22.1%		20.5%				
当期利益	163.5	191.1	152.2	200.0	183.0	-11.3	-6.9%	-8.1	-4.2%
(%)	17.2%	15.3%	15.9%		14.8%				
一株当り当期利益	—	548.80円	—	546.58円	500.60円				
一株当り配当	240円	480円	120円	240円	240円				
連結配当性向	—	87.5%	—	43.9%	47.9%				
						為替レート	2017年度実績	2018年度予想(今回)	
						1US\$	110.85円	109.86円	
						1€	129.70円	128.12円	
						100ウォン	10.00円	9.93円	

18

続きまして、ここが最後になりますけども、業績予想になります。昨日もプレスで出していますとおり、スマホビジネスの低調および米中摩擦とか世界経済の減速感の影響により、2018年5月の公表値、いわゆる年初の公表値を修正させていただきました。通期予想は売上1,240億円。対前年ではマイナス11.4億円の減収となります。率にしてマイナス0.9%です。営業利益が240億円、利益率が19.4%。額にしてマイナス40.6億円、率で14.5%の減益になります。税前利益は254億円、率は20.5%。当期利益が183億円、14.8%の下方修正をさせていただきました。

1株当たり利益は、以上から500.6円の予定でございます。配当に関しては上期120円出しておりまして、下期も120円の据え置きを今のところ予定しております。配当性向はこれにより47.9%の予想でございます。それから為替の年間の予想としましては、ドル109.86円、ユーロが128.12円、ウォンが0.093円、100ウォン9.93円になります。4Qの為替の前提がドル105円、ユーロ124円、ウォンが0.1円の前でございます。

あと口頭で申し訳ないんですけども、アプリケーション別の伸び率の年間見込み、スライドでは用意していないんですけども、口頭で補足させていただきます。上期でまずスマホに関しましては年間マイナス3%の予想を出しておりました。ここは現時点でより年度末の売りがまだ予想がつけに

くいところがあるんですけども、当面の流れのところ、1月、2月辺りから12月の売上不振とかを加味しまして、マイナス10%に変更しております。

それから自動車に関しましては、年初プラス10%、上期でプラス12%と変更しておりましたけれども、国内の1月の売上が多分、減少する見込みで、プラス10%に変更しております。産機に関しては、上期ではプラマイ0%の横ばいの予想を出しておりましたけれども、こちらもいわゆる3月の年度末の売上の見込みが例年ですと需要が上がる時期でもあるんですけども、そこは不確定要素で、ある意味折り込んでおらず、年間でマイナス2%の予想にしております。

正直申し上げまして、4Qかなり読みにくいんですけども、ある意味コンサバな数字で組んだつもりでございます。またそれに関しましては、後ほど福本から説明申し上げる予定にしております。私からは以上になります。ここから管理本部長代理の福本から説明申し上げます。

福本：おはようございます。ヒロセ電機管理本部の福本でございます。今日は多数の方ご来場いただきまして、誠にありがとうございます。ちょっと窮屈な思いをさせてしまったように思いますので、次回はまた会場のセッティングとかを考えさせていただきたいと思います。

決算の概略、それと業績見通しの概略は今、須崎のほうからご説明したとおりでございますけども。まず3Qまでは比較的、12月がちょっと落ち込んだので想定外ですけども、3Qまでの累計の959.9億という売上高、これは実は3Q累計で見ますと、我々の中での過去最高という売上になります。それとこれは逆算すると分かるんですけども、10月から12月の売上が約340億なんです。これもクォーターベースで見ると過去最高なので、この辺を見て今年度の当初、10月、11月辺りは今年度の皆さんにご提示した業績予想、やるんじゃないかなと思っておったんです。残念ながら特に12月に、受注が激減というか急減いたしました。

一つの例で申し上げますと、第2クォーター、3カ月の受注の平均を100としますと、12月の受注は72ぐらいなんです。これは特にスマホとか産機が落ちているんですけども、そういった状況を見まして、延長線で4Qは見ざるを得なかったかたちでございます。正直言って、この状態が3カ月、6カ月、あと3年続くのかどうか。これは現時点ではよく分らないのです。何度かこの決算説明会、当社の社長の石井が出てお話ししておりますとおり、中期的な視点で、スマホを含んだ民生、自動車、あるいは産機。この3本柱で当社は成長して、収益を上げていくと。この基本線は変わりません。

ただ、そうはいつでも今年度の着地は、営業利益率で残念ながら20%を切ると、19.4%でございます。この19.4というのは、実は今、IFRSで我々は決算やっていますから、必ずしもスクラッチな比較にはならないんですけども、2011年、この時が東日本大震災とか、確かドル対円は80円台で

動いていたと思うんですけども、その時が 20.6%ぐらいの営業利益だったのですが、それよりも悪い状況でございます。

ですから中期的に必要な先行投資、これはもちろん続けていきますけども、一方入ってくるお金が少なくなれば、当然出ていくお金も絞っていかなきゃいかんことも、並行してやっていかざるを得ないのが今のところでございます。この 4Q から来年度にかけて、やはり原価低減活動、これの徹底。あるいは経費節減。例えば旅費とか海外渡航、あるいは会議体をテレビ会議とか Skype とか、Teams をもっともっと活用してやっていく。あるいは設備投資の精査もやっていかなきゃいかんと。

それとさらに我々はいろいろ、ここのところリソースの強化で、キャリアの方の採用を増やしてきております。そのいわゆる人材の活用度というか、その辺をもう 1 回、よくチェックしていかなきゃいかん。あるいは IT の徹底的な推進も併せてやっていかなきゃいけないと思っています。

今日の段階で、その効果がいくらというのはお話しできません。これからそのところを強く計画的にやっていくんですけども、いずれにしても必要な投資、あるいはリソースの投入はしていきますけども、もう一つでは中身をよく見て、無駄を排除した経営を一段と強めていきたいと考えております。

最後になりますけども追加で、前回の上期の決算発表以降、二つだけお話をさせていただきたいと思っております。11 月 15 日に約 7 万 5,000 株の自社株買いをしております。金額にして約 9 億でございますけども、実施させていただいております。これは株主還元と資本効率、枠としては非常に小さいといわれるかもしれませんが、こういったことをまずやってきたということです。

それと 12 月 28 日に発表しておりますけども、当社は実はコネクタがもちろんメインなんですけども、一部セット事業というか、医療機器、それと健康機器の事業を持っておりました。これは大体 40 年間ぐらい実はやってきたんですけども、なかなか事業の拡大とかがいろいろ、収益的には非常に上がっていたのですが、規模が小さいまま終わっておりました。これをやはり、ここに書いてはありますけども、これは非上場の会社さんですけど専門の会社です。創業 100 周年の埼玉の川口に本社がある会社ですけども、そこに事業譲渡をさせていただきました。これによって事業の拡大、あるいは従業員がさらにやりがいのある仕事がやっていけるということで、一応 1 月 31 日にクロージングを行ったことを最後にお伝えさせていただきたいと思っております。

それ以降は、私のほうは補足は以上で終わらせていただきます。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。